

貯法：室温保存
有効期間：4年

承認番号 15200AMZ00706000
販売開始 1977年8月

外用用殺菌消毒剤

レゾルシン「純生」

Resorcin

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

- 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- 皮膚結核、真菌性皮膚疾患、単純疱疹、種痘疹、水痘の患者
〔症状が悪化するおそれがある。〕
- 乳幼児 [9.7、11.2参照]

3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	1g中 局外規 レゾルシン 1g
------	------------------

3.2 製剤の性状

性状	白色又は淡赤色の結晶又は粉末で、わずかに特異なおいがある。
----	-------------------------------

4. 効能又は効果

殺菌、鎮痒、表皮剥離、角質溶解剤として次の疾患に用いる。
脂漏、脂漏性湿疹、被髪部乾癬、尋常性ざ瘡、靴擦れ性脱毛症

6. 用法及び用量

2～5%の軟膏、水溶液又はローションとして、適量を1日1～2回塗布する。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.7 小児等

乳幼児には投与しないこと。経皮吸収のおそれがある。[2.3、11.2参照]

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	頻度不明
循環器 ^{注)}	頻脈等
消化器 ^{注)}	胃腸障害（悪心等）
中枢神経系 ^{注)}	眩暈、けいれん等
腎臓 ^{注)}	腎障害
血液 ^{注)}	メトヘモグロビン血症
過敏症	そう痒感、腫脹、水疱等
皮膚	真菌性・細菌性感染症
その他 ^{注)}	粘液水腫等

注) 長期連用・大量使用：経皮吸収によりこのような中毒症状があらわれることがあるので注意すること。[2.3、9.7参照]

14. 適用上の注意

14.1 薬剤調製時の注意

14.1.1 空気中で酸化されて紅色となり、鉄塩の存在でも同様に着色する。水溶液は変色しやすく、紅色から赤色を経て、つぎに褐色に変化する。アルカリの存在では変化は非常に速くなる¹⁾。

14.1.2 配合禁忌

塩化第二鉄液、炭酸水素ナトリウム、カンフル、プロテイン銀、フェノール、ヨウ化物、ヨードチンキ¹⁾

14.2 薬剤使用時の注意

- 眼及び眼の周囲には使用しないこと。
- 皮膚が徐々に離れるよう使用回数を調節すること。
- 毛髪に使用する際は、毛髪の石けん分を洗い落としてから使用すること。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

レゾルシンは、石炭酸と同じく殺菌作用があるが、作用の強さは石炭酸の1/3である。

局所的にはタンパク凝固作用を有し、また角質溶解作用も有する²⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：レゾルシン（Resorcin）

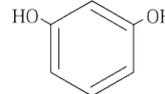
化学名：1,3-Dihydroxybenzene

分子式：C₆H₆O₂

分子量：110.11

性状：白色又は淡赤色の結晶又は粉末で、わずかに特異なおいがあり、味は甘く、後にやや苦い。
水又はエタノールに極めて溶けやすく、エーテルに溶けやすい。
水酸化ナトリウム試液に溶ける。
光又は空気によって徐々に淡赤色となる³⁾。

化学構造式：



20. 取扱い上の注意

瓶開封後は密栓して保存すること。

22. 包装

100g [ガラス瓶]

23. 主要文献

- 第八改正日本薬局方解説書。廣川書店。1971：C-1892-1895
- グッドマン・ギルマン薬理書（下）第6版。廣川書店。1986：1166
- 日本薬局方外医薬品規格。薬事時報社。2002：608

24. 文献請求先及び問い合わせ先

日興製薬販売株式会社 製品情報窓口
〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町32
TEL：03-3254-1831 FAX：03-3254-1846

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

小堀製薬株式会社
東京都墨田区両国4-36-9

26.2 発売元

日興製薬販売株式会社
東京都千代田区神田紺屋町32